

佐賀県研究成果情報（平成20年度）

果樹カメムシ類防除薬剤のミナミアオカメムシに対する殺虫効果					
[要約] 近年分布を拡大しているミナミアオカメムシに対して、果樹カメムシ類の防除薬剤として使用されるネオニコチノイド系薬剤及び有機リン系薬剤の殺虫効果は高いが、合成ピレスロイド系薬剤の殺虫効果は低いので、ミナミアオカメムシの発生圃場では薬剤の選択に注意が必要である。					
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果樹	専門	果樹虫害	対象	カンキツ

[背景・ねらい]

近年、ミナミアオカメムシの発生が佐賀県内の果樹園でも確認され、果実での被害発生が懸念されている。そこで、本種に対する果樹カメムシ類防除薬剤の殺虫効果（処理後の死亡虫率）を検定し、防除対策の資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. ミナミアオカメムシに対して、ネオニコチノイド系薬剤のジノテフラン水和剤（商品名：スタークル顆粒水溶剤）の効果発現は早く、殺虫効果は高い。有機リン系薬剤のMEP乳剤（商品名：スミチオン乳剤）の効果発現はやや遅効的であるが、殺虫効果は高い。
2. 一方、合成ピレスロイド系薬剤のピフェントリン水和剤（商品名：テルスター水和剤）及びシラフルオフエン水和剤（商品名：MR. ジョーカー水和剤）の殺虫効果は低い。
3. 供試薬剤の殺虫効果は、雌雄とも同じ傾向である。

[成果の活用面・留意点]

1. 本種は、アオクサカメムシに類似しているので同定の際に注意する。
2. 今回の殺虫効果の検定は、2008年5月に佐賀県三養基郡みやき町のコムギから採集した個体群の次世代を室内で検定した結果である。なお、同個体群を佐賀県農業技術防除センターで検定した結果も本情報と同じ傾向である。
3. 合成ピレスロイド系薬剤はミナミアオカメムシに対する殺虫効果が低いので、本種の発生が確認された場合は他系統薬剤を散布する。
4. 水稻及びダイズ等で使用されている合成ピレスロイド系薬剤のエトフェンプロックス剤（トレボン剤）については、果樹での使用量が少ないため検定を行っていない。

[ 具体的データ ]

表1 ミナミアオカメムシに対する各種薬剤の殺虫効果(2008)

性別	薬剤名	希釈倍数	処理後の死亡虫率			
			1時間後	6時間後	18時間後	48時間後
	スタークル顆粒水溶剤	2000倍	100%	100%	100%	100%
	テルスター水和剤	1000	71.4	76.2	76.2	76.2
	MR.ジョーカー水和剤	2000	0	9.5	14.3	23.8
	スミチオン乳剤	1000	52.4	100	100	100
	水処理	-	0	0	0	0
	スタークル顆粒水溶剤	2000	100	100	100	100
	テルスター水和剤	1000	71.4	76.2	76.2	76.2
	MR.ジョーカー水和剤	2000	14.3	23.8	23.8	28.6
	スミチオン乳剤	1000	33.3	81.0	100	100
	水処理	-	0	0	4.8	4.8

- 1)2008年5月に三養基郡みやき町のコムギから採集した個体群の次世代成虫を供試した。
- 2)成虫を薬液に10秒間浸漬した後、25℃、16時間日長下に置いて生死を判別した。苦悶虫及び歩行困難な個体は死亡虫と判断した。

表2 果樹園で見られる緑色のカメムシ類の見分け方

部位	種名		
	ミナミアオカメムシ	アオクサカメムシ	ツヤアオカメムシ
体長	12～16mm	12～16mm	14～17mm
触角	第3～5節の前半分が赤褐色	第3～5節の前半分が黒色	第3～4節の先端が黒色
前胸背の側角	先端が丸く、ほとんど突出しない。	先端が少し尖り、突出する。	丸みを帯びほとんど突出しない。
背中側の色彩	緑色の個体が多い。色彩変異があるので、他の部位の特徴を確認する。	緑色個体が多い。ミナミアオカメムシ同様の色彩変異あり	全体にツヤのある緑色
腹部背面(翅の下)	緑色	基部2～4節は黒～黒褐色。極わずかに緑色の個体あり	緑色
見た目の印象	アオクサカメムシより細長い	ミナミアオカメムシより太い	全体にツヤがある。

長谷川(1954)を改変

[ その他 ]

研究課題名：ミナミアオカメムシの薬剤感受性

予算区分：国 補 農薬耐性菌検定事業

研究期間：2008年(1975年～)

研究担当者：口木文孝・近藤知弥・井手洋一

発表論文等：口木文孝・近藤知弥・井手洋一 九州病害虫研究会秋季(第76回)大会(2008年)で発表

平成20年度 果樹試験場業務年報